

タイ王国

タイの教育制度(1)

- 面積: 51万4,000平方キロメートル(日本の約1.4倍)
- 人口: 6,617万人(タイ内務省, 2021年)
- 民族: 大多数がタイ族。その他、華人、マレー族等
- 言語: タイ語
- 宗教: 仏教94%、イスラム教5%
- 平均寿命: 男性75歳、女性84歳(世界銀行, 2020年)
- 成人識字率: 94%(世界銀行, 2021年)

タイにつながる本邦在留者は、永住者(39%)、定住者(8%)、日本人の配偶者(13%)が全体の60%を占める(総務省統計局, 2022年6月)。日本に比較的長く滞在するケースが多いことを踏まえ、中長期的な視野を持って、子どもを指導することが期待される。

学校体系と取得可能な資格・学位

- 1999年制定の国家教育法により、タイの義務教育年限は、初等教育6年間、前期中等教育3年間と規定された。
- 2021年の純就学率は、初等教育98.44%、前期中等教育90.98%、後期中等教育68.24%である(UIS, 2022年)。

	幼稚園, 就学前学級, 保育学校
義務教育 初等学校 (小学校)	1年生 (6~7歳)
	2年生 (7~8歳)
	3年生 (8~9歳)
	4年生 (9~10歳)
	5年生 (10~11歳)
	6年生 (11~12歳)
前期中等学校 (中学校)	7年生 (12~13歳)
	8年生 (13~14歳)
	9年生 (14~15歳)
後期中等学校(高等学校)・後期中等職業学校 (10~12年生)	
大学, カレッジ	

義務教育期間は日本と同じ9年間である。

学年歴は5月から翌年2月である。

★初等教育修了証

★前期中等教育修了証

★中等教育修了証/
職業教育終了証

★技術/職業/教育ディプロマ

★準学士、★学士

★修士、★博士

就学手続き・学校区域指定の有無

- 保護者は6歳から14歳の子どもを就学させる義務を負う。
- 就学手続きは、子どもの出生証明書を通学する学校に提出する。
- 義務教育段階から、学校区域の指定はない。子どもが通学する学校は公立学校でも自由に選ぶことができる。

学校教育費

- 義務教育段階の公立学校の基本費用(授業料と教育備品費)は無償であるが、原則として家庭が特別費用(学用品、教材、制服、通学費等)を負担する必要がある。
- ただし、自治体が特別費用を負担する場合があります。各自治体の予算により、負担状況は違う。バンコク市内では、予算が比較的潤沢なこともあり、基本的な筆記具、教材、制服2着、給食が無償で提供される。

進学要件

- 前期中等学校: 初等教育修了証
- 後期中等学校: 前期中等学校修了証
- 大学・単科大学: 後期中等学校修了証もしくは職業教育修了証の取得に加え、入学に際して選抜が行われる。

タイには、就学の機会を得ることが困難な児童生徒を対象とした学校があり、支援教育学校と呼ばれている。全国に51校、36,538名(2012年)が在籍する。就学が困難な理由としては、貧困、薬物問題、孤児、虐待、エイズまたは伝染病の影響、マイノリティグループ出身、住む家がない、児童労働への従事等である。障害のある児童生徒も全体の3%程度含まれる。

公立学校でも制服の購入が必要である。

タイの教育制度(2)

障害のある子どもの就学

※「特別支援教育」や「特別教室」の定義は、国により様々である。

UNESCOによると、タイにおける障害のある子どもの教育は、特別学校での教育から、インクルーシブ教育へ移行する過渡期にある。1999年国家教育法(2002年改訂版)は、障害のある子どもには教育を「特別に提供する」と定めているが、2008年障害者エンパワーメント法では、インクルーシブ教育を推進するとし、方針を転換した。2017-2036年の教育計画でもインクルーシブ教育を政策目標としている。

しかし、インクルーシブ教育推進に必要な設備と十分なスタッフが確保されておらず、目標達成への進捗は遅れている(UNESCO, 2021年)。

なお、障害のある子どもには個別教育計画が策定され、その計画に基づき個々の教育的ニーズに応じた教育が行われることになっている。

● 就学手続き

- 1) 保護者の依頼により、専門家が子どもの発達アセスメントを実施する。
- 2) 専門家がアセスメント結果に基づき、就学先を提案する。
- 3) 保護者が提案に基づき、入学を申し込む。

● 障害のある子どもの教育の場

通常学校(インクルーシブ教育)

個々の教育的ニーズに応じて、1)すべての時間を通常学級で学ぶ、2)通常学級と特別支援学級で学ぶ、3)すべての時間を特別支援学級で学ぶ。

特別学校

計55校。公立学校43校の内訳は、聴覚障害20校、視覚障害2校、知的障害19校、肢体不自由2校、在籍者は13,230名である(2012年6月)。

特別教育センター

センター内で障害のある子どもの学ぶ場を提供したり、家庭を訪問し障害のある子どもに教育の提供を行ったりする。また、障害のある子どもが就学する通常学校や医療機関に出向いて助言等を行う。

☀️ 指導上の留意点

- 比較的新しい概念である、自閉症やADHDなどを含む「発達障害」について、保護者は十分理解していない、または障害と認識していない場合がある。
- 来日前の教育の状況、家庭環境や成育歴、母語の発達の状況などが子どもの発達に影響を及ぼしていることに留意が必要である。

タイの教育内容(1)

タイは、タイ族をはじめ、華人、山岳少数民族、マレー族などで構成される多民族国家であることから、カリキュラムにおいても、ナショナル・アイデンティティの形成のために国語である「タイ語」の習得などが重視されている。

☀️ 国家基礎教育カリキュラムに示された子どもの8つの望ましい特性:

1. 国家・宗教・君主制への愛、
2. 誠実と高潔、
3. 自己規律、
4. 学習意欲、
5. 充足経済思想(1974年にタイ国王が提唱した経済哲学)の理念を生き方に生かすこと、
6. 勤勉であること、
7. タイのナショナリズムを大切にすること、
8. 公共心を持つこと

教科(小学校1~6年生)

- 基礎教育で学ぶ主要科目は、①国語(タイ語)、②算数、③理科、④社会・宗教・文化、⑤保健体育、⑥芸術、⑦職業・技術、⑧外国語の8科目である。
- 年間840時間の主要8科目に加えて、「学習者育成活動(※)」(年間120時間以内)および「追加コース」(年間40時間以内)の範囲で、各教育機関がカリキュラムを編成することができる。

※学習者育成活動: ①カウンセリング活動、②ボーイスカウト、ガールガイド、青年赤十字、国土防衛等にかかる活動やクラブ活動、③社会・公共の利益のための活動。

小学校1年生の履修科目と年間授業時間(2008年カリキュラム)

科目	授業時間
国語	200
算数	200
理科	80
社会・宗教・文化	120
保健体育	80
芸術	80
職業・技術	40
外国語	40
学習者育成活動	120以内
追加コース	40以内

評価・進級制度

- 進級の要件は、総学習時間の80%以上の出席や学習成果が各教育機関が定める基準に達していること。
- 各学習科目の成績に加え、読解力、分析的思考力、記述力、子どもの望ましい特性、学習者育成活動が評価され、合格しなければならない。
- 小学校、中学校ともに、読解、分析的思考力、記述、望ましい特性などの評価については、優、良、可、不可の4段階で採点される。
- 補習制度がある。多くの科目で不合格であった児童生徒に対しては、委員会が設置され、進級の可否が慎重に検討される。

☀️ ●初等教育の留年率(全学年平均):1%(世界銀行, 2018年)

●初等教育最終学年の残存率(※):98%(世界銀行, 2017年)

(※)初等教育の最初の学年に入学した子どものうち、最終学年に到達した子どもの割合。

修了率(※):初等教育99%、前期中等教育86%、後期中等教育65%(2019年)

(※)各教育段階の最終学年該当年齢より3~5歳年齢が高い子どものうち、最終学年を修了した子どもの数の割合(データは、UNICEF, 2022年)。

タイの教育内容(2):算数カリキュラム

初等算数教育の学習内容系統一覧表(日本の学習領域に則り整理)

領域/学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●100までの数 ●1、2位数の加法・減法 ●加法・減法の混合した式の計算 	<ul style="list-style-type: none"> ●1000までの数 ●3位数の加法・減法 	<ul style="list-style-type: none"> ●10万までの数 ●4、5位数の加法・減法 	<ul style="list-style-type: none"> ●整数の乗法・除法 ●分数の意味 ●同分母の分数の大小比較 ●同分母の分数の加法・減法 ●小数の意味(小数第1位) 	<ul style="list-style-type: none"> ●概数と四捨五入 ●帯分数と仮分数 ●異分母の分数の加法・減法 ●小数の加法・減法(小数第2位まで) ●小数と分数の変換 	<ul style="list-style-type: none"> ●最大公約数と最小公倍数 ●四則の交換法則、結合法則、分配法則 ●分数の乗法・除法 ●小数の乗法・除法(小数第3位まで) ●小数の四捨五入 ●方程式
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●身の周りの平面図形の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ●三角形、四角形、円、楕円 ●直方体、球、円柱 	<ul style="list-style-type: none"> ●点と直線、線分、角 ●対称な図形 ●立体図形と平面図形の関係 	<ul style="list-style-type: none"> ●鋭角・直角・鈍角 ●平行 ●長方形と正方形 ●円の要素 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな四角形の性質 ●いろいろな三角形の性質 ●平面図形、角、平行の作図 ●いろいろな立体図形の性質 	<ul style="list-style-type: none"> ●四角形の対角線 ●立体図形の展開図と見取り図(立方体、円柱、円錐、角柱)
測定/変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ●長さの比較 ●重さの比較 ●かさの比較 ●カレンダー(曜日、日) 	<ul style="list-style-type: none"> ●長さの単位(m, cm) ●重さの単位(kg, g) ●かさの単位(L) ●時計の読み方(5分刻み) ●カレンダー(日、月、年) 	<ul style="list-style-type: none"> ●長さの単位(mm)と測定 ●重さの測定 ●かさの単位(mL)と測定 ●時間と距離 	<ul style="list-style-type: none"> ●長方形の面積の公式 ●経過時間 	<ul style="list-style-type: none"> ●角の大きさ ●三角形と四角形の周囲の長さ ●三角形の面積の公式 ●直方体の体積の公式 ●百分率(%) 	<ul style="list-style-type: none"> ●地図上の位置と方向、経路 ●いろいろな四角形の面積の公式 ●円周と円の面積の公式 ●百分率(%)の計算
データの活用			<ul style="list-style-type: none"> ●身の周りのものの整理・分類 ●絵グラフと棒グラフの読み取り 	<ul style="list-style-type: none"> ●表の読み取り ●絵グラフと棒グラフの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ●省略記号を含む棒グラフ ●2軸棒グラフ ●起こりやすさ 	<ul style="list-style-type: none"> ●折れ線グラフ、円グラフ



数と計算領域を指導する際の留意点

●各学年で学習する整数

タイの各学年で学習する整数は、日本よりも小さい。例えば、日本の3年生は1億まで学習するのに対し、タイの3年生は10万までしか学習しない。そのため、整数の学習の前に追加的な指導が必要である。例えば、3年生までタイで学習し、4年生から日本で学習する子どもには、学習の前に10万～1億までの数を指導する必要がある。

●乗法・除法の学習時期と記号

タイでは、かけ算とわり算を4年生から学習する。例えば、2年生までタイで学習し、3年生から日本で学習する子どもは、かけ算やわり算が未習のため、その意味や計算方法について指導を行う必要がある。また、タイではわり算の記号に「/」を使い、例えば $12 \div 4$ は「 $12/4$ 」と書くため、タイでわり算を学習した子どもには、日本のわり算の記号の指導が必要である。

●分数の学習時期

日本では分数を2年生、小数を3年生から学習するが、タイではどちらも4年生から学習する。例えば、3年生までタイで学習し、4年生から日本で学習する子どもには、分数・小数の意味や読み方、簡単な計算などの指導が必要である。

タイの学校文化

1年間の学校行事

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月

1学期

2学期

新学期

期末テスト

期末テスト

休み
(約15日間)

休み(※)
(約45日間)

(※)4月13日～15日はソンクラーンというタイの旧正月であり、3～5月は最も暑い季節である。

1日の流れ

- 授業があるのは月曜日から金曜日であり、土・日・祝日は休みである。
- カリキュラムにより、小学生の学習時間は、1日5時間を超えない範囲で、年間1,000時間以内、中学生の学習時間は、1日6時間を超えない範囲で、年間1,200時間以内と定められている。

6:00

登校／朝食時間

登校手段は、徒歩、自転車、保護者の送迎(自家用車、バイクなど)、公共バイク、レンタルバスなど、さまざまである。

7:30

7:45

朝礼

朝食と昼食は学校で無料提供される。

8:15

ホームルーム

朝礼の時間は、国歌斉唱、経の唱和、国王賛歌の斉唱などが行われる。
ホームルームの時間は、出席の点呼などが行われる。

8:30

授業

11:30

昼食時間

授業と授業の間には正式な休み時間は設けられていない。1単位時間は60分である(教室の移動時間や次の授業の準備時間を含む)。

12:30

授業

15:30

小学生には宿題を課さないことが教育省により推奨されていることから、小学校では、なるべく児童に宿題を出さないよう努めている。

学校のルール・習慣

- タイでは、「ラック・タイ(民族・宗教(仏教)・国王の3つの要素で構成)」という原理のもと、愛国心の育成に力を入れており、教室には「国旗」「仏道祭壇」「国王肖像」が掲示されていたり、毎朝の朝礼で国旗掲揚と国歌斉唱が行われたりする。
- 先生とすれ違う際は、「ワイ(合掌)」をして、挨拶をする。
- 教育省は、男子学生には刈り上げ、女子学生には耳たぶくらいの長さのボブカット(あるいは、髪が長い場合は結ぶこと)を義務付けてきたが、2020年に同規定を撤廃し、各教育機関の裁量で髪型にかかる校則を定めることができるとした。しかし、依然として、多くの学校で髪型を厳しく制限している。
- 掃除は、児童生徒が当番制で午後の授業が終わった後に行う。

学校生活に必要なもの

- 以下は無償で提供される：①授業料、②教科書、③学習教材(演習帳、ノート、鉛筆、ペン、消しゴム、各種定規、コンパス、コンピュータ教材、A4用紙、画用紙、クレヨン等)、④制服、⑤子どもの育成に資する活動にかかる費用。

勉強以外の活動

- 子どもの育成に資する活動として、①学習活動(年一回以上)、②ボーイスカウトやガールスカウトのキャンプなど倫理観や道徳心を高めるための活動(年一回以上)、③校外学習(年一回以上)、④ICTに関連する活動(年40時間以上)がある。

保護者の関わり

- 授業参観は実施されていない。家庭訪問は年一回行われる。
- 保護者面談は各学期に一回行われる。



指導上の留意点

- タイでは宿題を課すことが推奨されていないため、日本の学校で多くの宿題を課された場合、保護者や子どもが戸惑う可能性があることに留意が必要である。

参考文献

- 外務省. タイ王国(Kingdom of Thailand)基礎データ. (オンライン) 2022年2月7日. (引用日: 2023年1月19日.) <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/data.html>.
- The World Bank. World Development Indicators. Data Bank. (オンライン) 2022年12月22日. (引用日: 2023年2月15日.) <https://databank.worldbank.org/reports.aspx?source=2&country=THA>.

(学校制度)

- 総務省統計局. e-Stat 政府統計の総合窓口. 在留外国人統計(旧登録外国人統計). (オンライン) 2022年6月. (引用日: 2023年1月13日.) <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00250012&tstat=000001018034>.
- 松井裕子. タイ教育省主催『特別支援教育に関する国際シンポジウム』の報告. 障害児教育と障害者就労の現状と今後の課題. (オンライン) 2018年3月. (引用日: 2023年1月4日.) <https://www.nise.go.jp/cms/resources/content/14368/20180522-113530.pdf>.
- 文部科学省. タイ王国. 世界の学校体系. (オンライン) 2017年. (引用日: 2022年12月23日.) https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2017/10/02/1396848_013.pdf.
- Bangkok International Preparatory & Secondary School. Bangkok Prep at a Glance. (オンライン) (引用日: 2022年12月19日.) <https://www.bangkokprep.ac.th/bangkok-prep-at-a-glance/>.
- Education Destination Asia. School Education System In Thailand. (オンライン) (引用日: 2022年12月19日.) <https://educationdestinationasia.com/essential-guide/thailand/thailand-education-system>.
- Kanokporn Vibulpatanavong. Inclusive Education in Thailand. 2017. (オンライン) (引用日: 2023年3月20日.) <https://www.atlantispress.com/proceedings/icece-17/25889734>.
- OECD and UNESCO. Reviews of National Policies for Education in Thailand, An OECD UNESCO Perspective. (オンライン) 2016年. (引用日: 2023年1月25日.) <http://dx.doi.org/10.1787/9789264259119-en>.
- The Education for Development Foundation. 無償教育は全部無償だということは誤解. (オンライン) (引用日: 2023年1月11日.) <https://www.edfthai.org/jp/index.php?pageid=26>.
- UNESCO Institute for Statistics (UIS). UIS.Stat. (オンライン) 2022年. (引用日: 2023年1月19日.) <http://data.uis.unesco.org/>.
- UNESCO. Profiles Enhancing Education Reviews (PEER) .Thailand Inclusion (オンライン) 2021年7月2日. (引用日: 2023年1月17日.) <https://education-profiles.org/eastern-and-south-eastern-asia/thailand/~inclusion>.

(教育内容・学校文化)

- 植田 啓嗣. タイの初等教育におけるASEAN 教育の展開に関する一考察. (オンライン) 2016年. (引用日: 2023年1月23日.)
<https://core.ac.uk/download/pdf/286928621.pdf>.
- 国際交流基金. 日本語教育 国・地域別情報 タイ(2020年度). (オンライン) (引用日: 2023年1月15日.)
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2020/thailand.html>.
- 文部科学省. 世界の学校体系, タイ王国. (オンライン) 2016年. (引用日: 2023年1月6日.)
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2017/10/02/1396848_013.pdf.
- Bangkok Post. Education Ministry leaves hairstyles for schools to decide. (オンライン) 2022年. (引用日: 2023年1月23日.)
<https://www.bangkokpost.com/thailand/general/2312050>.
- Ministry of Education. Implementation of the 15-Year Free Education with Quality Policy. (オンライン) 2009年. (引用日: 2023年1月23日.)
https://planipolis.iiep.unesco.org/sites/default/files/ressources/thailand_free_education.pdf.
- Ministry of Education. Basic Education Core Curriculum. (オンライン) 2008年. (引用日: 2023年1月23日.) <https://neqmap.bangkok.unesco.org/wp-content/uploads/2019/06/Basic-Education-Core-Curriculum.pdf>.
- The World Bank. Persistence to last grade of primary, total (% of cohort) - Thailand. (オンライン) (引用日: 2023年1月6日.)
<https://data.worldbank.org/indicator/SE.PRM.PRSL.ZS?locations=TH>.
- The World Bank. Repeaters, primary, total (% of total enrollment) - Thailand. (オンライン) (引用日: 2023年1月30日.)
<https://data.worldbank.org/indicator/SE.PRM.REPT.ZS?locations=TH>.
- UNICEF Data. UNICEF Global database on completion rate.(オンライン) 2022年5月(引用日:2023年3月16日.)
<https://data.unicef.org/topic/education/primary-education/>

(算数カリキュラム)

- Ministry of Education. Basic Education Core Curriculum B.E. 2551 (A.D. 2008). (オンライン) (引用日: 2023年1月30日.)
<https://neqmap.bangkok.unesco.org/wp-content/uploads/2019/06/Basic-Education-Core-Curriculum.pdf>

ヒアリングおよび質問紙調査

- タイの小学校教員へのヒアリングおよび質問紙回答 (2023年2月20日.)

※ 為替レート: 2023年3月JICAレートにて換算(THB1=3.8914100円), 百の位で四捨五入(500円以下の場合は十の位で四捨五入).